



L字型に伸びた防波堤により、波などの影響を受けない静穏域で、ホタテなどを蓄養（一時保管）でき、天候に左右されず安定した出荷が可能になる。



静穏域で蓄養されたホタテや、漁獲した水産物などが陸揚げされる。



陸揚げされたホタテを選別・計量。屋根付きの作業場で、雨や鳥のふんなどから水産物を守ることができる。



Mランドは全国初の2層構造の人工島で、陸地と橋で直結している2階部分は、一般車両も利用できる駐車場や、漁具の修理・保管場所などに利用されます。1階部分は、岸壁と屋根のある作業スペースで、鳥の飛来や、ふんなどの被害を防ぐほか、ホタテ貝が直接雨にさらされることも減り、衛生管理や環境面が大幅に改善されました。

また、隣接している北海道立総合研究機構栽培水産試験場との連携で、栽培から資源管理まで一貫して研究ができ、約260メートル沖合のMランドで清浄海水を容易に採取できることから、ホタテの稚貝養殖のほか、今後はホタテ成貝、毛ガニ、タコ、サケなどの水揚げや出荷に利用され、水産物のさらなる品質向上が期待されています。

# つくり育てる漁業・ふれあい漁港へ 室蘭追直漁港沖合人工島

## Mランド始動



漁業環境の変化と多様化に対応するべく、構想から20年、着工から17年かけて建設された沖合人工島Mランド。4月24日に供用式が行われ、漁業の増養殖支援の新たな拠点として、本格始動しました。

《詳細》農水産課 ☎22-1118

室蘭の外海に面している追直漁港は、沖合底びき網漁業や、道内外のイカ釣り漁業、サケ定置網漁業などの沿岸漁業の生産流通拠点で、平成23年の生産量は1.9万トン、生産高は23億円と、胆振管内最大の水揚げ量で、漁業生産高の約3割を占める、北海道でも有数の漁港です。

しかし、長年にわたり、養殖水域の静穏度（波などの影響を受けない度合い）の問題や、狭い作業環境などにより、非効率な漁業活動を余儀なくされてきました。また、近年、日本の漁業は水産資源の減少等から、養殖などで自ら水産資源を作り出す「つくり育てる漁業」への転換が求められるようになりました。

そこで室蘭市は、追直漁港を「つくり育てる漁業」の支援基地とするとともに、すぐ近くに市街地を抱える都市近接漁港として、市民の生活と密接した「ふれあい漁港」を目指す「Mランド構想」を平成5年に発表しました。

この構想が国の漁港整備計画にも反映され、養殖支援基地となる沖合人工島、通称「Mランド」の整備が平成8年度から始まり、室蘭市、室蘭開発建設部、室蘭漁業協同組合の連携により計画が進められ、平成25年3月22日に完成しました。

## 7月13日(土)、完成記念イベントを開催

沖合人工島Mランドの完成を記念したイベントが7月13日(土)に行われます。食と音楽のコラボレーションをテーマに、音楽イベントや、施設の一般公開、マツカワの稚魚放流、西いぶりうまいもん・いちなどが開催される予定です。詳細は、広報むろらん7月号でお知らせします。



7月13日から、2階の駐車場部分が一般開放されます。ここからしか見られない室蘭外海岸の断崖絶壁などを、さまざまな風景を楽しめます。